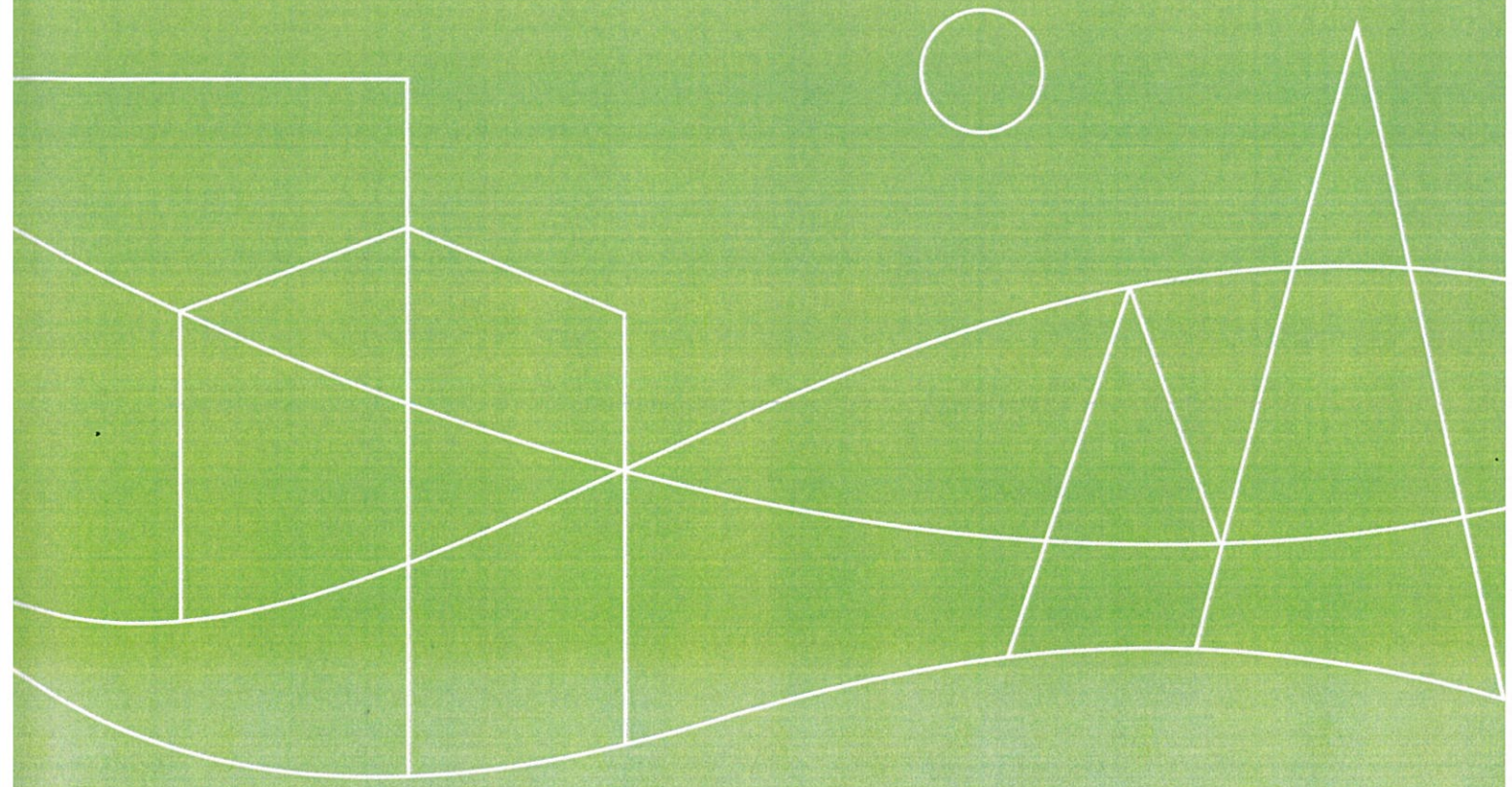


奏の杜まちづくり・まち育てガイドライン 景観

I 緑・景観に配慮したまちづくりの取り組み

II 公共空間の景観形成

III 景観形成ガイドライン



本書の使い方 - 位置づけと構成 -

本地区では、奏の杜まちづくり憲章に掲げた目標像を実現するため、景観、防犯、環境に関するガイドラインを作成しています。

本書は、本地区における景観形成の基本的な考え方や公共空間及び宅地における建築物等の整備指針を示したものです。

奏の杜まちづくり憲章

景観

安全・安心

環境

● まちづくりについて ●

本地区のまちづくりについて知りたい方は、第Ⅰ、Ⅱ章をご覧ください。第Ⅰ章では、憲章に掲げる目標像“豊かな緑に包まれた美しいまち”を実現するための、景観形成の基本的な考え方、第Ⅱ章では、公共空間における景観形成の取り組みを紹介しています。

● まちのルールについて ●

宅地における建築物等の整備指針

本地区で建築物を整備される方は、第Ⅲ章でまとめた整備指針をよく読み、計画してください。この『景観形成ガイドライン』は、本地区において建築物等を整備する際を守るべきこのまちのみんなのルールです。

Ⅰ 緑・景観に配慮したまちづくりの取り組み

- 1. 目標像と取り組み方針 ⇨ P1
- 2. 奏の杜における景観形成の基本的な考え方 ⇨ P2

Ⅱ 公共空間の景観形成

- 1. 奏の杜の都市基盤 ⇨ P4
- 2. 公共空間における景観形成 ⇨ P6

Ⅲ 景観形成ガイドライン

- 1. 景観形成ガイドラインとは ⇨ P17
- 2. 環境緑地による統一的なまちなみ形成 ⇨ P24

3. 景観ルール

① 戸建住宅 地区 ⇨ P32	② 複合型 サービス 地区 ⇨ P48	③ 中高層住宅 A地区 ⇨ P58	④ 沿道複合型 サービス 地区 ⇨ P68
⑤ 沿道利用 地区 ⇨ P76	⑥ 中高層住宅 B地区 ⇨ P88	⑦ 中低層住宅 地区 ⇨ P99	⑧ 集合農地 地区 ⇨ P111

- 4. 運用方法と手続きについて ⇨ P115
- 5. 環境緑地の管理マニュアル ⇨ P116

I

緑・景観に配慮したまちづくりの取り組み

1 緑・景観に配慮したまちの目標像と取り組み方針

(1) 目標像

豊かな緑に包まれた美しいまち

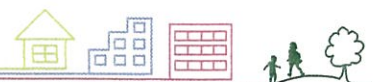
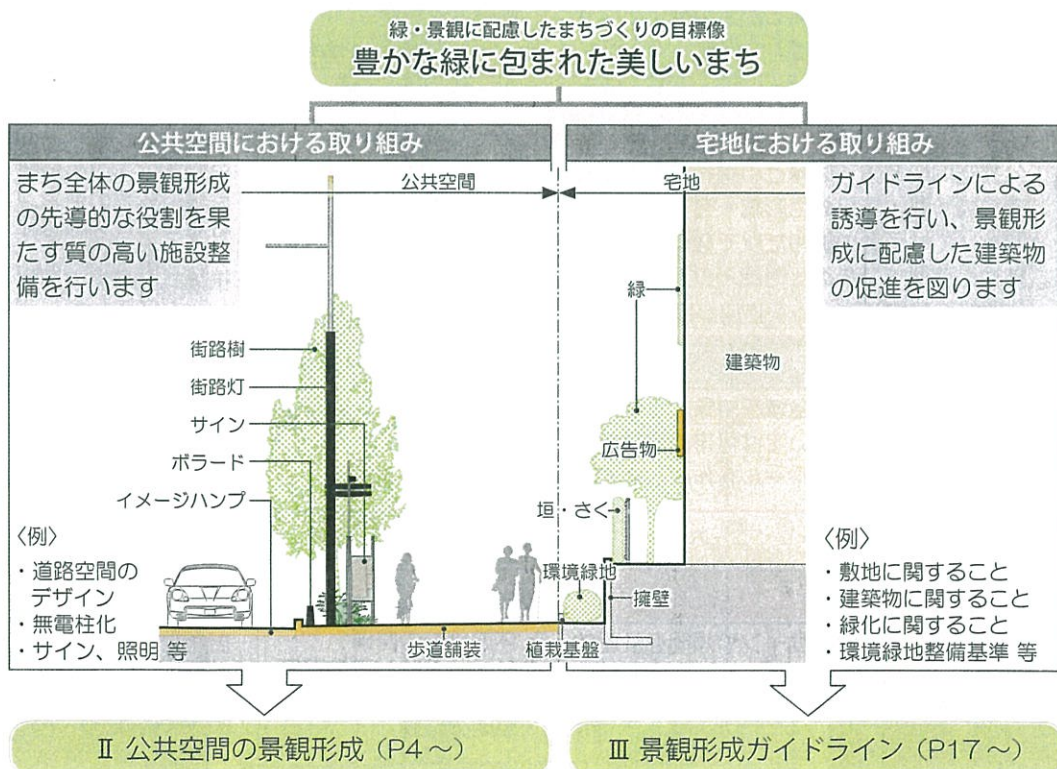
良好な景観は、まちに潤いや個性を与えるとともに、そこで暮らす人々にとってまちに対する愛着や誇りを与える、かけがえない共有の財産です。

奏の杜では、“豊かな緑に包まれた美しいまち”を目標像として掲げ、緑を大切に守り育て、月日を重ねるごとに輝きが増す美しいまちを目指し、景観形成を推進します。

(2) 取り組み方針

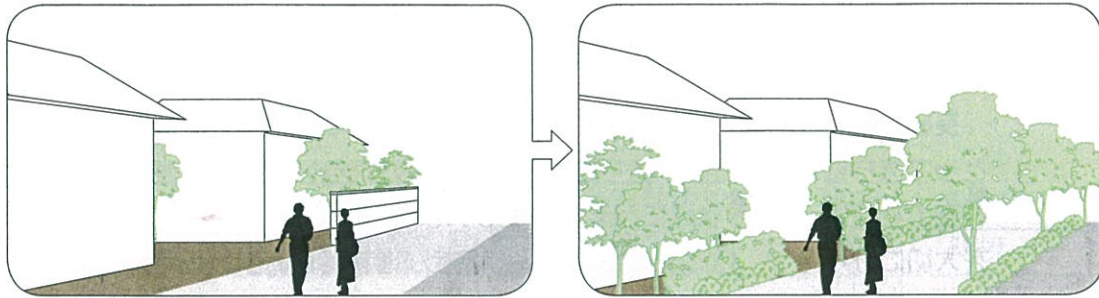
まちの景観は、道路や建築物、広告物等、そのまちにある全ての要素から構成されます。中でも、街路樹や歩道舗装等の公共施設から受ける印象が重要な役割を持ちますが、宅地内の道路に面した部分はそれらの公共施設と同様に景観に大きな影響を与える領域です。

奏の杜では、景観形成の先導的な役割を果たす質の高い公共空間の創出を図るとともに、宅地においても建築物等の整備時に守るべきルールを作成し、まち全体で景観の美しいまちづくりに取り組みます。



2 奏の杜における景観形成の基本的な考え方

奏の杜では、街路樹、植栽帯、公園内の緑地等の公共空間の緑と共に、主として道路空間において目に見える緑を増やすことに重点を置き、景観形成を行います。目に見える緑とは、このまちで生活する人が日常的に感じる事が出来る緑のことをいい、各敷地内の緑もできるだけ道路空間に面する部分に配置・確保することで、まち全体で緑を共有することができる環境をいいます。



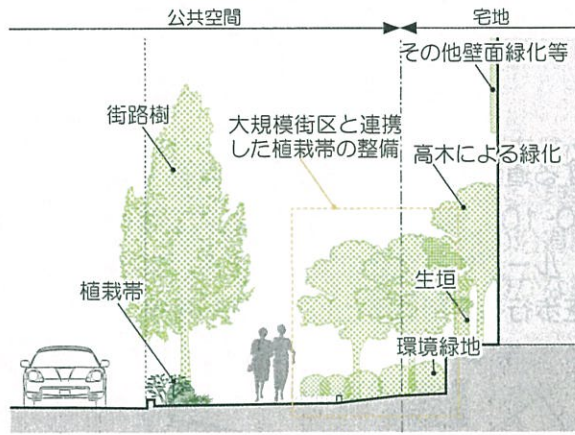
〈目に見える緑が少ないまち〉

〈目に見える緑が多いまち〉

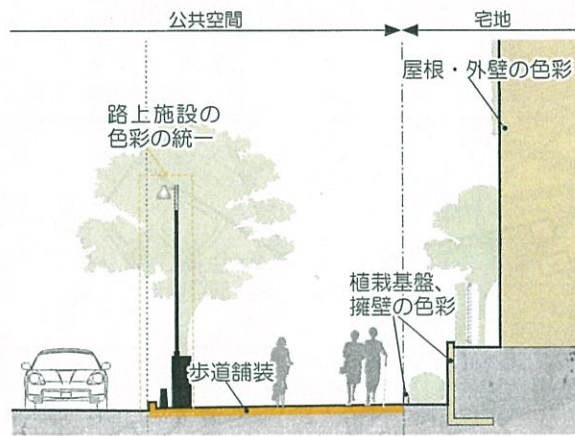
本地区では、緑地を確保するための「みどりの景観をつくる」項目と緑地をより魅力的にするための「みどりの景観をまもる」項目を中心として、「まちなみ景観に配慮する」「まちなみ景観を演出する」を加えた4つの考え方を軸に景観形成を行います。

	公共空間	宅地 (景観形成ガイドラインのルール)
みどりの景観をつくる 公共空間においては各道路のコンセプトに基づく街路樹・植栽帯の整備を行い、宅地においては道路に面する部分の緑化に関するルールを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹、植栽帯の整備 大規模街区と連携した植栽帯の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化先導施設の整備 駐車場の修景 環境緑地の整備 (環境緑地整備基準) 生垣の整備 シンボルツリーの整備 その他の緑化
みどりの景観をまもる 公共空間においては緑との調和を考慮し歩道舗装や路上施設の色彩統一を行い、宅地においては色彩の調和だけでなく緑地の連続性を確保するため、門扉・シャッターの位置等に関するルールを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> 歩道舗装 路上施設の色彩統一 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車スペースの配置 自動車出入口の設置 屋根・外壁の色彩 駐車スペースの門扉・シャッターの位置 機械式駐車場の制限
まちなみ景観に配慮する 公共空間においては全域を対象とし無電柱化を行い、宅地においては付帯設備や広告物等の設置に関するルールを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> 全域を対象とした無電柱化 路上施設の集約化 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場・ゴミ置場の設置 間口率の設定 屋根の形状 付帯設備の設置 広告物の設置 垣・さくの設置 土地利用の制限 防砂ネット・倉庫等の設置
まちなみ景観を演出する 公共空間においてはサインや照明を計画的に整備し、宅地においてもサインや照明だけでなく、店先空間の演出等に関するルールを作成します。	<ul style="list-style-type: none"> 休憩施設の整備 イメージハンブの整備 サインの整備 照明の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 街角のデザイン サイン、オーニングの設置 店先空間の演出 照明の設置

みどりの景観をつくる



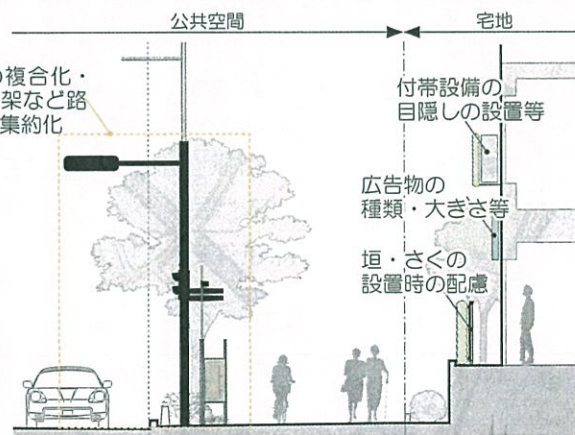
みどりの景観をまもる



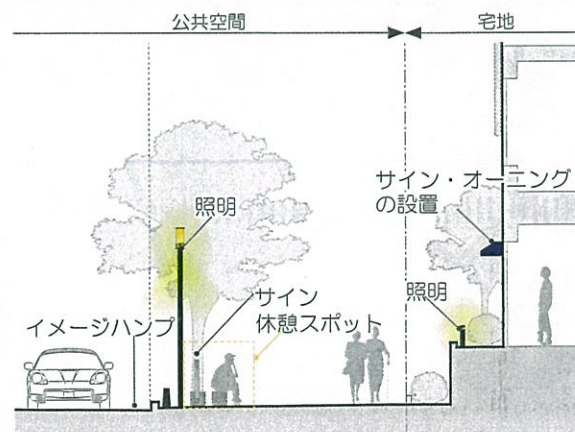
まちなみ景観に配慮する



サインの複合化・信号の共架など路上施設の集約化



まちなみ景観を演出する

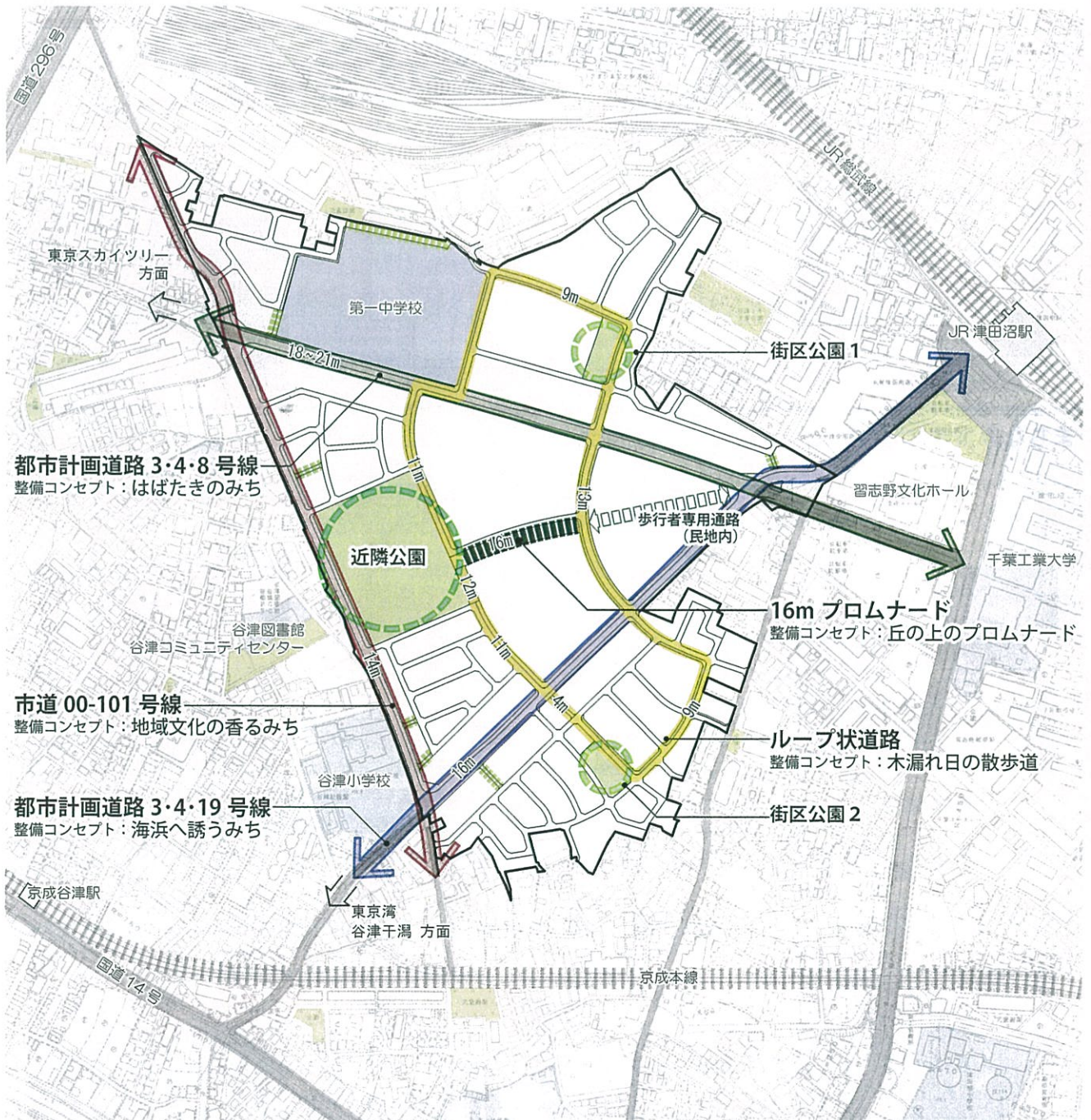


II 公共空間の景観形成

1 奏の杜の都市基盤

(1) 道路・公園の配置

地区の骨格を形成する道路として、3本の幹線道路（都市計画道路3・4・19号線、3・4・8号線、市道00-101号線）を配置し、近隣公園と街区公園を結び地区内を回遊する動線として、ループ状道路を位置づけます。また、地区の中央にある16mプロムナードと緑道を歩行者専用道路として整備します。



(2) 緑のネットワーク

近隣公園と JR 津田沼駅を結ぶ動線を緑のシンボル軸として位置づけ、地区の中心となる緑豊かな空間形成を行います。また、幹線道路やループ状道路の沿道においては、宅地内の緑と一体的に街路樹等を整備し、豊かな緑化空間の創出を図ります。

幹線道路

- ・地区の主要な自動車交通動線。
- ・都市計画道路 3・4・19 号線、3・4・8 号線、市道 00-101 号線。
- ・歩道は、それぞれの整備コンセプトに基づき舗装パターンや街路樹等をデザインし、自転車歩行者道として整備する。

ループ状道路

- ・地区内を環状に結び地区全体に回遊性を持たせる地域内回遊ルート。
- ・幅員 13m、11m、9m の道路と幅員 12m、4m の歩行者専用道路を含む。
- ・歩道は、様々な幅員を持つ道路を基本となる舗装パターンで統一し、一体的に整備する。

16m プロムナード

- ・JR 津田沼駅と近隣公園を結び地区の中心を貫く幅員 16m の歩行者専用道路。
- ・まちのシンボルにふさわしい「緑のシンボル軸」として整備する。

近隣公園

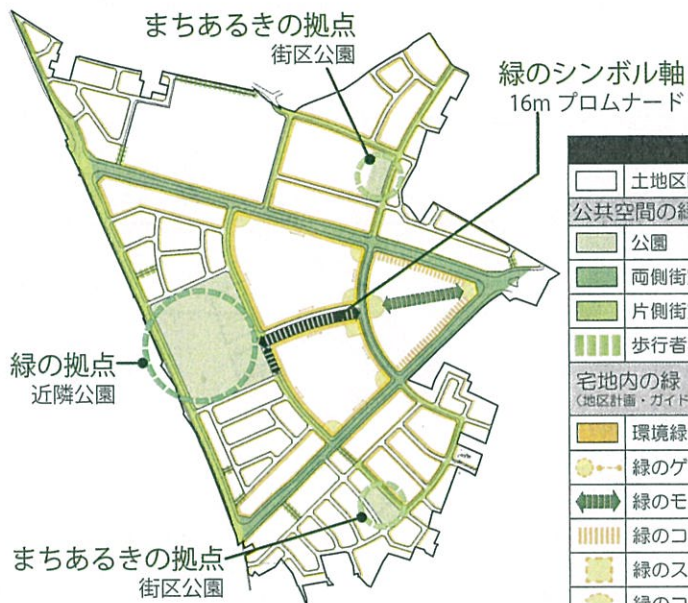
- ・地区の中心に位置する大規模な公園。
- ・誘致圏は半径 500m 程度で、地区内の住民だけでなく近隣住民を含めた人々の利用も想定した公園。
- ・緑のシンボル軸と一体的な「緑の拠点」として整備する。

街区公園

- ・地区の南北にそれぞれ位置する中規模の公園。
- ・誘致圏は半径 250m 程度で、主に地区内の住民の利用を想定した公園。
- ・ループ状道路沿いに位置し、「まちあるきの拠点」として整備する。

緑道

- ・地区内に 8カ所ある歩行者専用道路。
- ・幹線道路から住宅街区内へのゲート空間として整備する。



凡例	
	土地区画整理事業施行地区
公共空間の緑	
	公園
	両側街路樹道路
	片側街路樹道路
	歩行者専用道路（緑道）
宅地内の緑 (地区計画・ガイドラインによる規定)	
	環境緑地（幅員 0.5m ~ 3m）
	緑のゲート
	緑のモール
	緑のコリドー
	緑のスクエア
	緑のコナー

(3) 歩行者のネットワーク

近隣公園と街区公園を結ぶループ状道路や歩行者専用道路、民地内の通路を連続的に整備し、回遊性の高い歩行者ネットワークを形成します。



凡例	
	土地区画整理事業施行地区
	歩道付き道路
	歩行者専用道路（緑道）
	公園

2 公共空間における景観形成

(1) 道路・公園計画

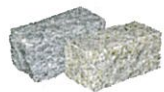


都市計画道路 3・4・19 号線、3・4・8 号線、市道 00-101 号線の 3 本の幹線道路は、それぞれのコンセプトに基づき歩道の舗装パターンや街路樹等をデザインするとともに、自転車歩行者道として整備します。

TOPICS デザインモチーフとキーアイテム

公共空間の整備にあたり、海に近い立地特性や、音楽に造詣が深い土地であることから“波”や“音”、もともと農地であったこの土地の記憶として畑の“畝”等をモチーフとし、デザインを展開します。

また、歩道や公園などに使われその機能性とデザイン性を高めているのがピンコロ石です。景観にとけ込み、まちなみと融合する、さりげない存在感を持つ本地区のキーアイテムです。公共空間だけでなく宅地内においても環境緑地の植栽基盤として使用することで、まち全体で統一感のある景観形成を行います。



1 幹線道路

延長：約 550m
幅員：歩道 4.5m- 車道 7m- 歩道 4.5m

〈整備の考え方〉

JR 津田沼駅から海浜方面へと続く道。施設帯を連続的な曲線でデザインし、波打ち際を表現します。

〈街路樹〉

親しみを感じ、花、実、紅葉を楽しめるハナミズキ ホワイトラブを植栽します。

都市計画道路 3・4・19 号線
海浜へ誘うみち



延長：約 620m
幅員：歩道 5.5m- 車道 7~10m- 歩道 5.5m

〈整備の考え方〉

本地区の整備に伴い新しく生まれる道。施設帯を直線的なデザインとし、まちが未来に向かって発展していく様子を表現します。

〈街路樹〉

ビスタを強調する垂直直立型のケヤキ ムサシノを植栽します。

都市計画道路 3・4・8 号線
はばたきのみち



延長：約 880m
幅員：歩道 4.5m- 車道 7m- 歩道 2.5m

〈整備の考え方〉

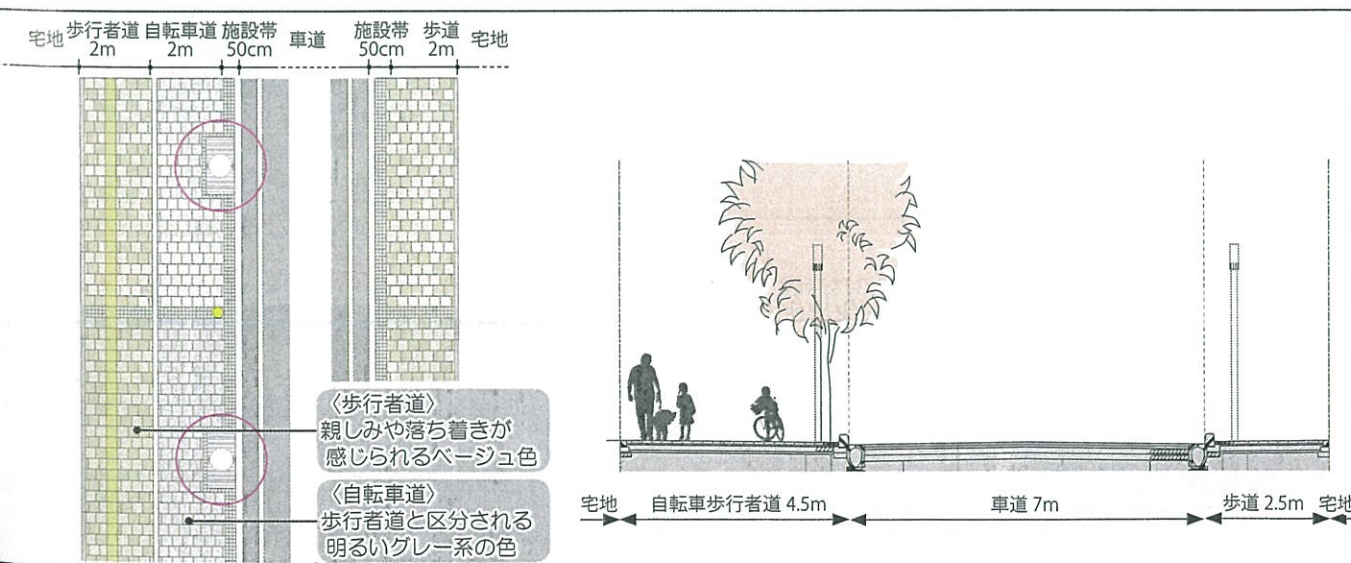
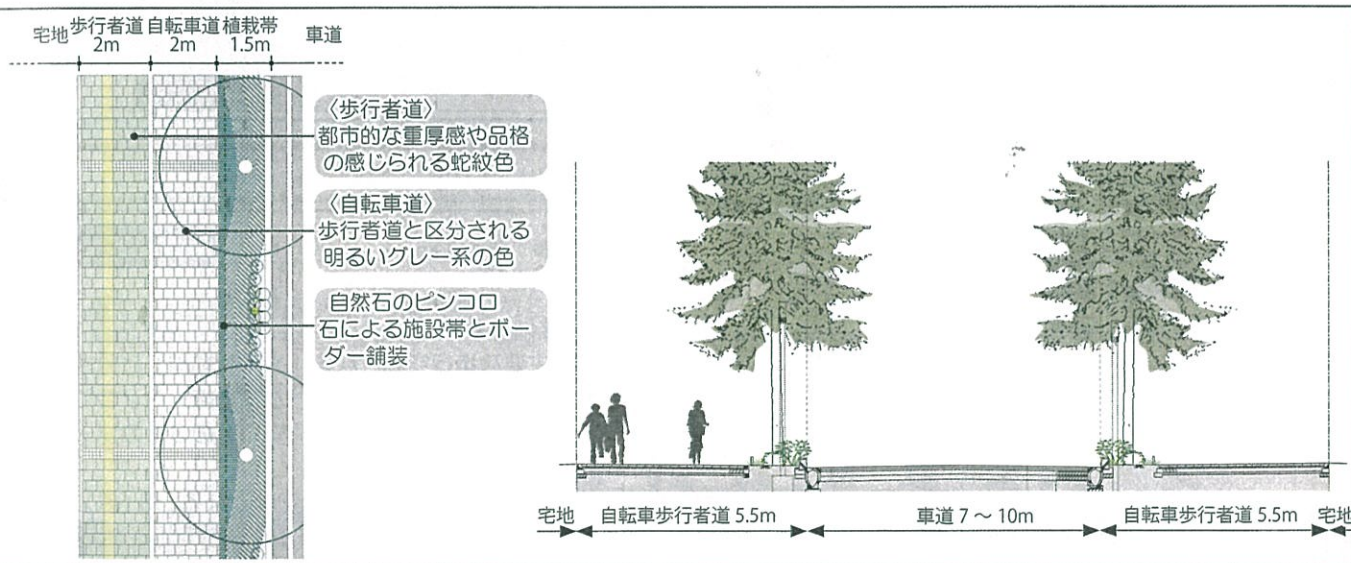
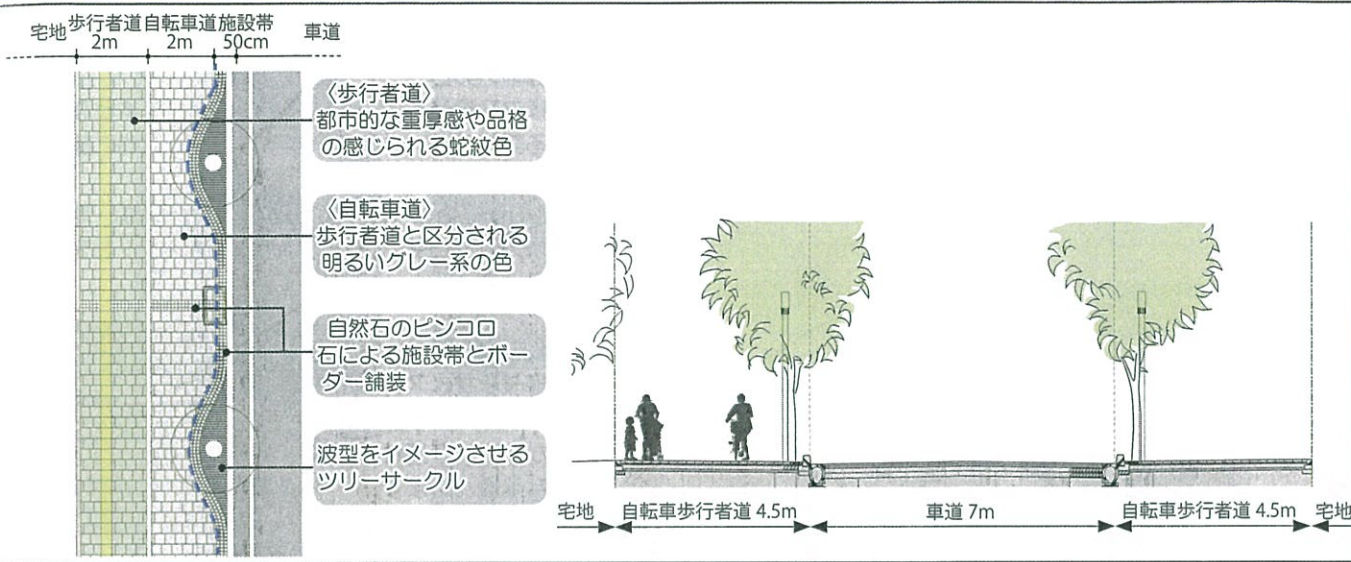
地域の文教施設が点在し既設住宅地と接する道。土地の記憶を大切にし落ち着きを感じられる舗装パターンとします。

〈街路樹〉

入学期の春を愛でるサクラ アマノガワを植栽します。

都市計画道路 00-101 号線
地域文化の香るみち

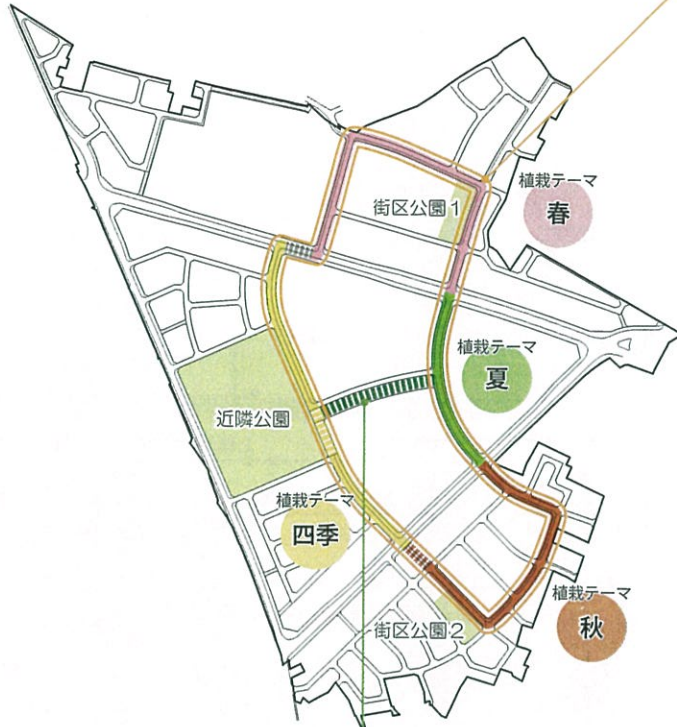




※現時点（H23.3）における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。

ループ状道路
整備コンセプト：木漏れ日の散歩道

ループ状道路は、幅員 13m、11m、9m の道路と 12m、4m の歩行者専用道路により形成される地区内を環状に結ぶ歩行者ルートです。



16m プロムナード
整備コンセプト：丘の上のプロムナード

16m プロムナードは、JR 津田沼駅と近隣公園とを結び、地区の中心を貫く幅員 16m の歩行者専用道路です。

16m プロムナードの整備コンセプト
おおらかな丘陵地にある緑のシンボル軸

● 歩いて楽しくつろげる空間

まちの中心に位置するプロムナードは、緑豊かなまちのシンボルとして、歩く人も憩う人も楽しめる空間をつくります。

● 土地の記憶を伝えるデザイン

土地の記憶である畑の「畝」や「にんじん」などをモチーフとしたデザインを展開します。



にんじんをイメージした台形の舗装パターン

2 ループ状道路

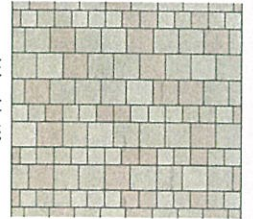
- 幅員：13m (歩道 3m- 車道 7m- 歩道 3m)
- 11m (歩道 5m- 車道 6m)
- 9m (歩道 3m- 車道 6m)
- 12m (歩行者専用道路)
- 4m (歩行者専用道路)

〈整備の考え方〉

様々な幅員を持つ5種類の道路を、基本となる舗装パターンを統一することで一体的に整備します。
11m 道路と 12m 歩行者専用道路には、地域の人々が憩い、交流できる休憩スポットを設けます。

〈舗装パターン〉

様々なサイズの透水性平板を組み合わせ、豊かな表情を見せる方形乱張りとします。



〈植栽計画〉

植栽地の条件や周辺の街路樹景観との調和に配慮し、場所に応じて季節のテーマを設定し植栽します。

木漏れ日の散歩道
ループ状道路

3 16m プロムナード

- 延長：約 160m
- 幅員：16m

〈整備の考え方〉

主要な歩行空間となる「メイン動線」と緑地空間内の散策路となる「サブ動線」の2つに区分し、「集い」「憩い」「交流」の3つのゾーンに分けて整備します。
デザインは、この土地の記憶となる「畑(畝)」や「丘(海岸段丘)」をモチーフとし、利用者に親しまれる空間を提供します。

〈舗装パターン〉

「にんじん」をイメージした台形の基本パターンを交互に組込んだ舗装パターンとします。

〈景観施設の整備〉

水景が楽しめるモニュメントやガス灯等の整備により、まちの中心となる上質な憩いの空間を形成します。

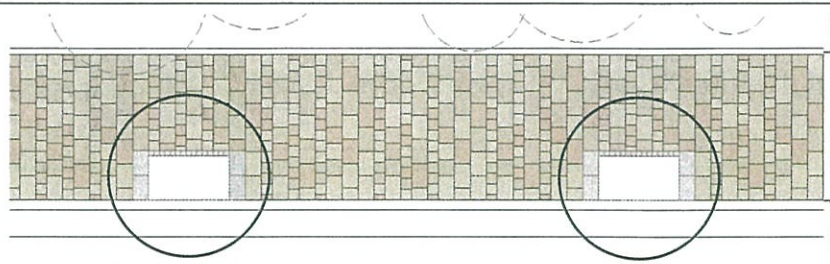
丘の上のプロムナード
16m プロムナード



ガス灯の整備 (イメージ)



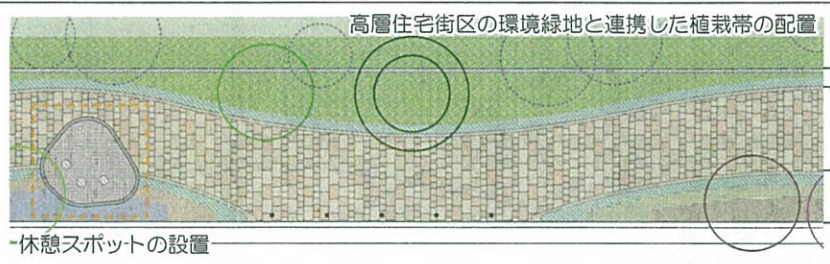
シマトネリコ等



13m 道路
宅地
歩道
3m
車道



ソヨゴ等



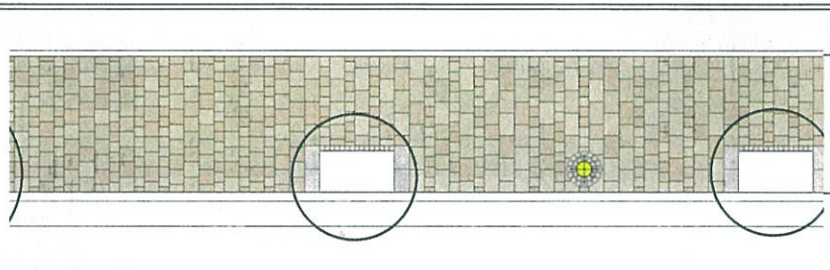
高層住宅街区の環境緑地と連携した植栽帯の配置

休憩スポットの設置

11m 道路
宅地
植栽帯
歩道
2.5m 以上
植栽帯
車道



マダノリア
エリガハス等



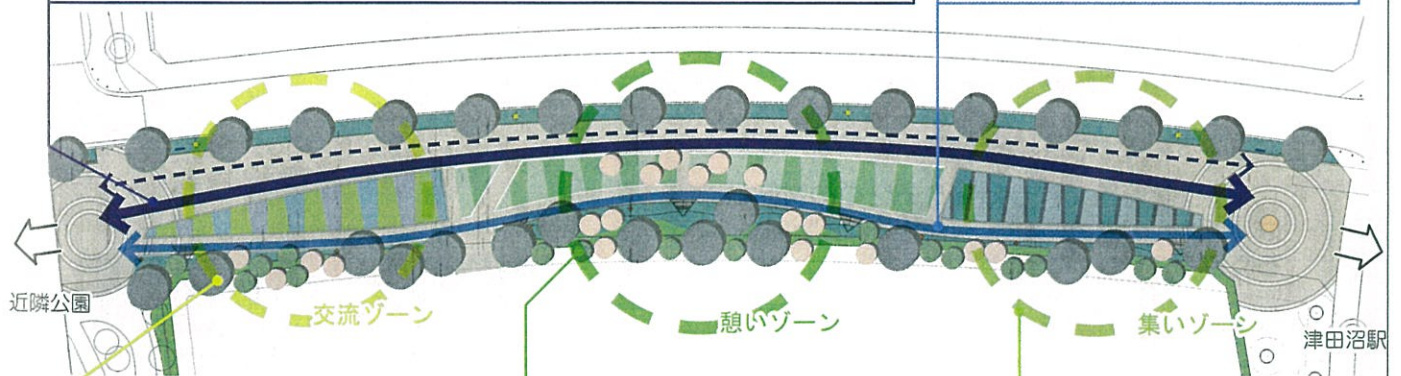
9m 道路
宅地
歩道
2.7m
車道

メイン動線

緩やかな曲線で幅員が変化し開放感のあるシンボリックな通路。車道側は舗装形態に変化を持たせ自転車動線として整備し、安全な利用を促します。

サブ動線

緑地空間内を抜ける園路。緑に囲まれ四季の変化を感じさせる情緒のある空間を形成します。



花の広場

花木を植栽し、風物詩となるような季節の演出を行います。



森の広場

屋敷林のような森に囲まれた憩いの場としてベンチやパーゴラ等を設置し、植栽は防風機能を併せ持つよう配慮します。



ゲート広場

水景が楽しめる噴水等の施設を中心としたまちの顔となる空間を形成します。



※現時点 (H23.3) における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。

4 街区公園



街区公園の整備コンセプト

みんなの共有の庭となり、愛着の持てる公園づくり

● 立ち寄る楽しさを感じる公園

ループ状道路により結ばれる2つの街区公園は、街路樹、環境緑地等のまちの緑と調和し、まちあるきの拠点となる公園をつくります。

● 住民同士がふれあい、出会い、居心地の良い公園

住民同士の日常的な交流の場として、子供たちがのびのびと安全に遊べ、大人にとっても居心地のよい公園をつくります。

● まちなみと調和し土地の魅力を引き出すデザイン

キーアイテムであるピンコロ石等のまちのキーアイテムを使用するとともに、丘の頂部という知性から、風や空をデザインテーマとすることによりまちなみとの調和や土地の魅力に配慮したデザインとします。

〈整備の考え方〉

まちに爽やかな風が吹き抜ける願いを込めて、「風」をデザインテーマとした公園を整備します。

〈植栽計画〉

ループ状道路の植栽テーマに合わせて3月～4月にかけて花を咲かせる樹木を中心に植栽し『春の庭』を演出します。



アメリカザイフリボク 'ロビンヒル'

シテコブシ

街区公園1

〈整備の考え方〉

まちが未来に羽ばたいていく想いを込めて、「空」をデザインテーマとした公園を整備します。

〈植栽計画〉

ループ状道路の植栽テーマに合わせて11月に紅葉する樹木を中心に植栽し『秋の庭』を演出します。



ナンキンハゼ 'ストロキヤンダル'

イロハモミジ

街区公園2

休憩ゾーン

マウンドにより利用者の視線を園内へ誘導し、園内を見渡せる休憩施設を設ける

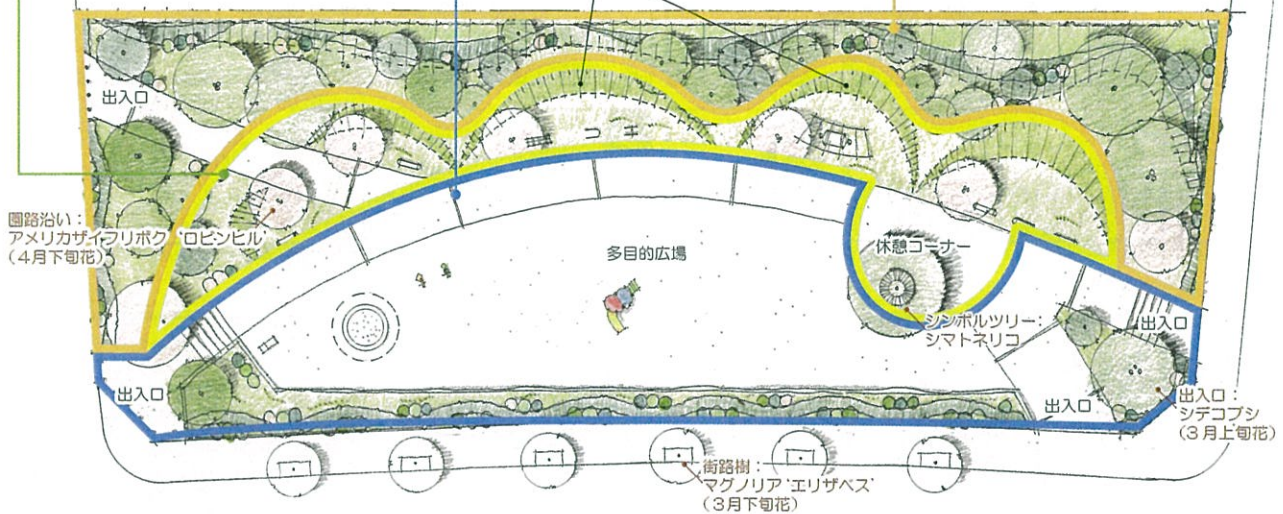
遊戯ゾーン

園内の見通しを確保しながら道路側への飛び出しを防ぐための植栽等を設ける

修景ゾーン

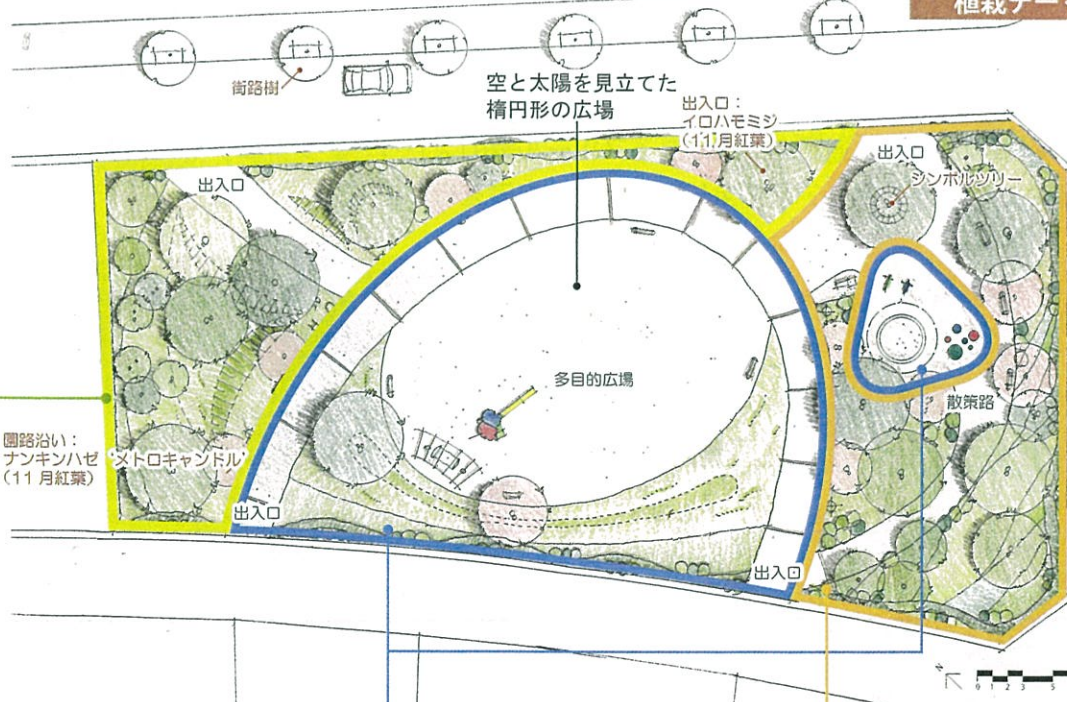
常緑の花木やカラーリーフを植栽し、隣地専用庭に対する修景を行う

風紋をモチーフとした三日月の傾斜



植栽テーマ『春の庭』

植栽テーマ『秋の庭』



休憩ゾーン

マウンドにより隣地との緩やかな境界をつくり、園内を見渡せる休憩施設を設ける

遊戯ゾーン

周辺道路に対し園路とマウンドによって緩やかに区切られた広場をつくる

修景ゾーン

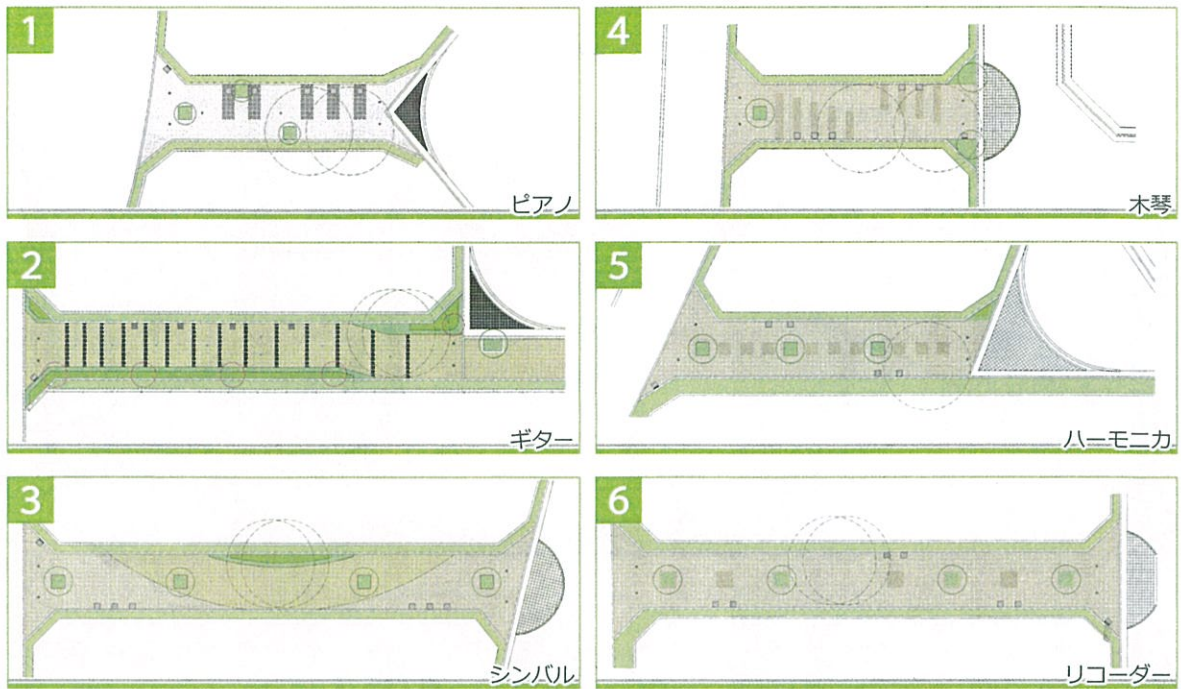
道路側への修景を行うとともに四季を演出する植栽地を設ける

※平成23年7月時点における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。



5 緑道

地区内に8カ所ある緑道のうちの6カ所は、この地域が音楽に対して造詣の深い土地であることから、楽器をモチーフとしてデザインします。

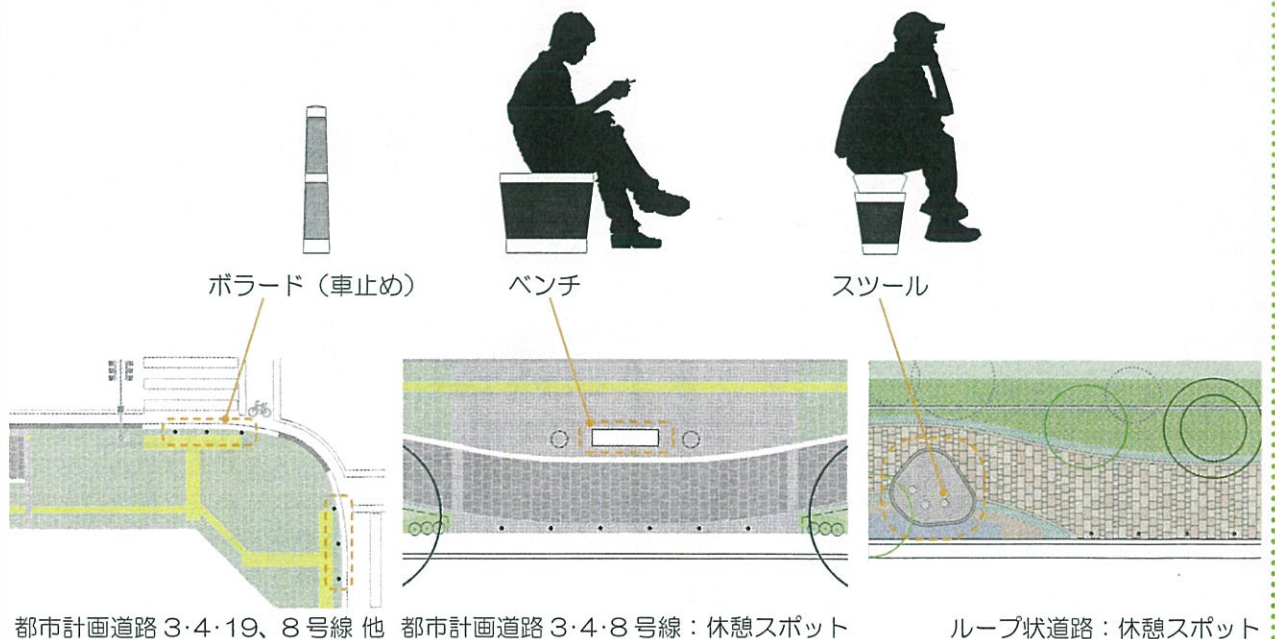


TOPICS

ベンチ・スツール等

ボラード、植栽フェンス等の路上施設は、都市的な繊細さと重厚感のあるデザインのものを使用し、その他の路上施設となる照明やサイン等とも色彩の統一を行います。

また、緑道やループ状道路の一部にあるスツール等のストリートファニチャーもボラード等と同調したデザインとし、まち全体で一体的な整備を行います。

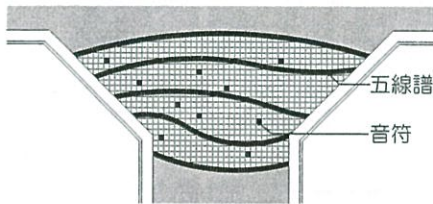


6 イメージハンブ・イメージフォルト

住宅街区への入り口となる道路面には“イメージハンブ”、緑道の出入口には“イメージフォルト”を整備し、舗装形態に変化を与えます。これらは、街区内に進入する自動車に注意を促し、走行速度を抑制したり心理的に進入しにくくするとともに、まち特有の景観をつくり、このまちらしさを演出する効果が期待されます。

〈デザインの考え方〉

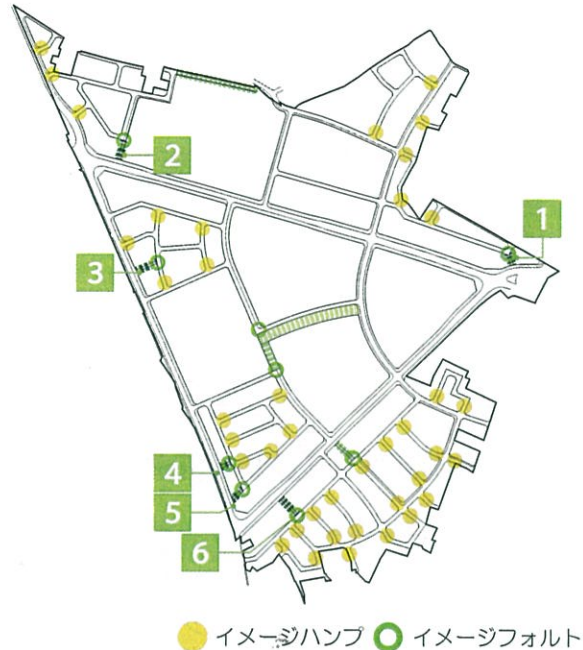
“音楽のまち”にちなんで、五線譜をモチーフとしたデザインとしました。緩やかな曲線の五線譜に音符が表現されています。



〈イメージハンブ〉



〈イメージフォルト〉



● イメージハンブ ○ イメージフォルト

7 ごみ集積所

地区内の一部の街区に整備されるごみ集積所は、塀の部分道路境界から50cm後退させ、環境緑地の植栽基盤と同様の素材で舗装することで、環境緑地との連続性を保つ設えとし、隣接する宅地の擁壁にも配慮した素材を使用する事で、まちなみに調和し、統一感のある仕様とします。

〈ごみ集積所〉



美しい景観を保つため、ごみ集積所を利用する全世帯が協力し、定期的な清掃、防鳥ネットの収納等、管理に関するルールを定め、適切に維持管理を行いましょう。



● ごみ集積所 ■ ごみ集積所の設置範囲

※現時点（H23.3）における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。






公共空間
（道路・公園等）

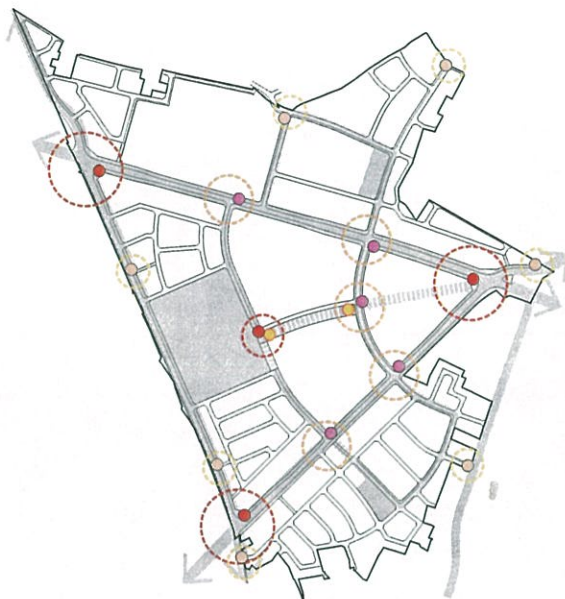


(2) サイン計画

サインとは、「しるし」「符号」「合図」等、人々が直感的に意味内容を理解できる「情報源」のことをいい、標識、看板等の視覚的な情報表示や、誘導ブロック、音声、点字等のバリアフリーの観点から必要となる情報表示等、様々な種類があります。また、場所や空間の独自のイメージを創出する環境演出機能も持ち合わせています。

本地区では、「やさしい」「たのしい」「力強い」をコンセプトに、情報を提供する装置としてユニバーサルデザインの観点からも十分な機能を持たせるだけでなく、“奏の杜らしさ”を伝えまちの魅力を向上させるアイテムとしてサインを計画します。

素材	
	<ul style="list-style-type: none"> 〈金属（アルミ鋳物、ステンレス等）〉 ・経年変化に耐える力強い素材
	<ul style="list-style-type: none"> 〈ガラス〉 ・情報を大切に守り、見せる素材
	<ul style="list-style-type: none"> 〈土地の象徴・文明の象徴〉 ・土地の象徴となる土の色 ・文明の象徴となる金属、ガラスの色
機能	
	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報だけでなく、まちの記憶を封じ込めるサイン
	<ul style="list-style-type: none"> ・発見する楽しさや喜びがあり歩く人の道しるべとなるサイン
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナリティーがあり、まちのブランド力を高めるサイン



- 主要誘導ポイント
● 複合サイン①
● ストリート名サイン
- サブ誘導ポイント
● 複合サイン②
- 個別誘導ポイント
● 複合サイン③

〈整備の考え方〉
地区内の歩行動線上の主要な分岐点に優先順位をつけてそれぞれの地点に必要な情報を掲出します。

通り名や地名等を表示
16cm
1.2m

交差点部の路面に設置
各街路のコンセプトに合わせたオリジナリティーのあるグラフィック
70cm
90cm

著名地点誘導サイン：
公園や学校等の拠点となる地点の情報を表示

1.2m

公共周辺案内サイン：
周辺の文化施設等の情報を表示

1.7m

自転車歩行車道サイン

街区案内サイン：
まちの玄関となるような地点で周辺地図等を含む情報を総合的に表示

3.5m

2.4m

複合サイン①

90cm

50cm

50cm

2.5m

複合サイン②

50cm

50cm

1.8m

複合サイン③

(3) 照明計画

夜間における十分な明るさの確保と景観の演出を図るため、一体的な照明計画により質の高い光環境を創出します。

幹線道路においては、歩く楽しみに配慮しランタンのような暖かい光環境を創出するとともに、主要な交差点部には機能的な照明を配置することで十分な明るさを確保しました。その他の道路では、住環境に配慮しつつ十分な明るさを確保するとともに、2種類のデザインの違う灯具を配置し、変化を感じる景観を演出します。

〈車道照明〉



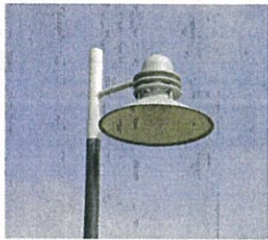
〈歩道照明〉



〈街路照明〉



〈防犯灯〉



〈整備の考え方〉

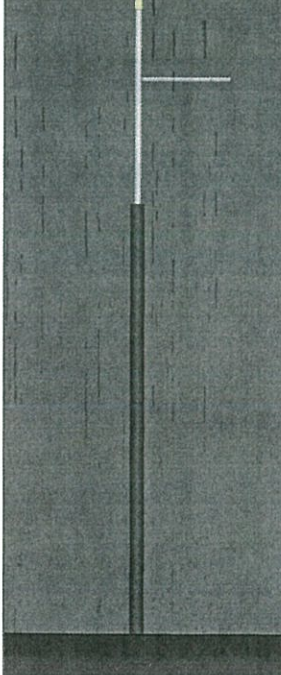
道路の幅員等に応じて4種類の灯具を使用し、まち全体の光環境を演出します。
(市道 00-101 号線を除く)

● 車道照明 ● 歩道照明 ● 防犯灯 ● 街路照明

車道照明

・抑揚のある光の点滅がまちのリズムと呼応し豊かさや温もりを感じさせるLEDを、景観のアクセントとして頂部に設置したデザイン

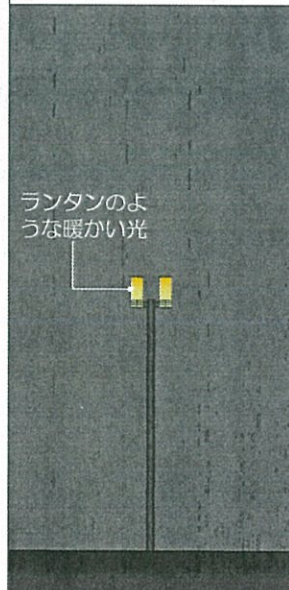
LED



歩道照明

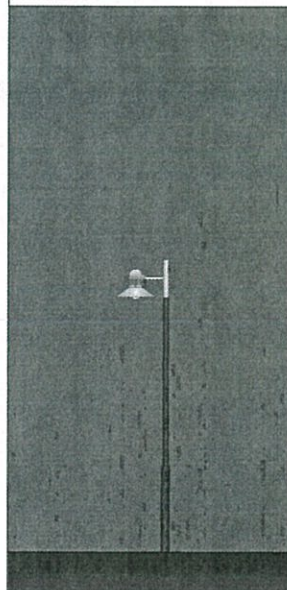
・五線譜をモチーフとし、ランタンの光と下方へのダウンライトの光を兼ねたデザイン

ランタンのような暖かい光

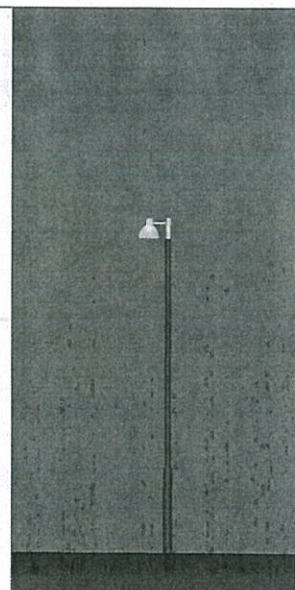


防犯灯

・「風」や臨海のロケーションをイメージし、世界的に認められている耐久性・耐候性にも優れたブランドを取り入れた住宅地区のホスピタリティを高めるデザイン
・高演色、長寿命、高効率な光源を採用し、住宅地の夜間景観や交通視認性に配慮した上方向への光の拡散を防止した形状







街路照明

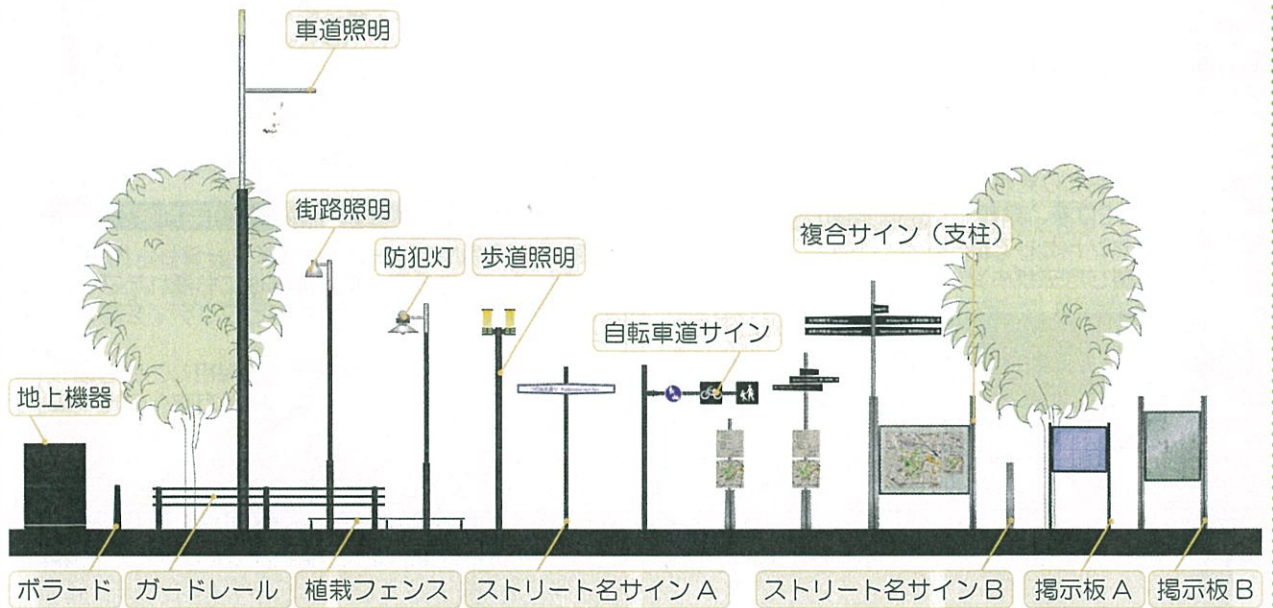


※現時点 (H23.3) における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。



公共空間の景観は、サインや照明だけではなく様々な施設により構成されています。これらの色彩を、サインや掲示板等の情報等を強調させる施設を明るいグレー、照明ポールや植栽フェンス等の緑やまちなみに調和させるものを濃いグレーとし、グレー系の階調で統一し、計画的に整備します。

対象施設	地上機器	安全防護施設		ツリーサークル	植栽フェンス	照明ポール				ストリート名サイン A	自転車道サイン (支柱)	複合サイン (支柱)	ストリート名サイン B	掲示板 A	掲示板 B
		ガードレール	ポラード			車道照明 (支柱)	街路照明 (支柱)	防犯灯 (支柱)	歩道照明						
指定色	N2	N3			N4				N5						
															



※現時点 (H23.3) における計画内容であり、詳細については今後変更する可能性があります。